

令和6年度第1回看護専門研修委員会 議事録

日 時：令和6年10月24日 17:00～18:00

場 所：オンライン開催

参加者：口分田政夫・秋山英泰・安達和史・池田麻左子・市原かつ江・市原真穂・卜部美代・
落合三枝子・金子恵美・相樂初江・眞保 隆・中村千鶴子・新関 翼・原田直志・
布施谷咲子・増田恭子・眞鍋裕紀子・山口宏美・吉田昌佐美・逸見聡子

書 記：逸見聡子

1. 自己紹介

2. 委員会趣旨説明

- ・重症心身障害福祉協会認定・重症心身障害看護師制度を本学会としても連携・応援・支援・活用の方策について検討する。

- ・本学会の会員数のうち、看護師数は最大であり、今後の看護の課題や確認しておくべき手順などマニュアルなど議論する場とする。

3. 重症心身障害看護師制度の概略説明

- ・重症児福祉協会ホームページ、小児看護参照

- ・各地区ブロックの進捗状況報告

北海道ブロックは令和7年度より再開予定。東京ブロックは8期生が修了した。

神奈川は看護協会と協賛し研修を進めていたが、今後は支援がなくなる見通しである。関東・中部ブロックは来年度14名受講予定。九州・沖縄については来年度より受講料を値

上げする予定。

4. 課題について

1) 運営上の課題

- ・運営する看護部長の世代交代により制度の成り立ちが薄らいでいる。今後はカスタマイズしながらレベルアップしていけたらよいか。

- ・運営の負担が多く、今後座学研修は2～3ブロックを統合し研修できないか。

- ・東北ブロックからの参加者が少なく、重症心身障害看護師の話題も少ない。

- ・看護研究は苦勞している様子だったが、現場に還元できる研究が出来ればよいか。

- ・認定後、5年後の更新申請者は50%を切っている状態であり、実践報告書も5年の経験を積んだ割には薄い内容だった。

- ・受講料の値上げ

2) 共催施設以外の状況

- ・共催施設外の参加は学校や保育園勤務も増えたが、認定者は全体の1割程度に留まる。

- ・看護研究の際倫理審査の場所がない、指導する人がいない

- ・公益社団法人として、広く公募する必要がある。

3.) 認定者の活用方法

- ・実際に資格をもって看護協会の認定看護師制度や特定行為研修など資格取得し知識と実践を組み合わせしていく事が出来た

- ・認定によって、指導などで活躍しているが、国立病院機構では研修が減っている。

- ・国立病院機構内でどれだけ活躍できるのか、実績など見えてくると病院からも研修をだし

やすくなるのではないか。

- ・年々認定者のレベルは上がってきている。現場での活用、推進 インセンティブが算定要件や診療報酬など結び付けていけたらいいか。どこかの学会とつなげていけたらよいか。

5. 重症心身障害看護の課題や看護のガイドライン的な標準マニュアルの検討など

- ・国立病院機構で長く重症児者病棟に勤務する人は少なく、利用者も個別性が高いため呼吸や姿勢管理など再分化をして専門的に科学的根拠に基づいたマニュアルができれば良い。
- ・重症児者の臨床倫理、重症児者の意思決定について難しさを感じている。
どうにかしたいという気持ちがあるがどうして良いかわからない事例もある。
そのあたりのケースを考え方の道筋がわかると検討しやすいので積極的にプログラムを作ってほしい。

6. その他

- ・今後は重症心身福祉協会とコラボしホームページなどで発信していく
- ・今後の委員会開催は年2回程度を計画する。
- ・委員長については 次回までに推薦する。